

ヤマシンフィルタ株式会社 2019年3月期 事業説明会

東証一部

6240

2019年6月26日

I ■ 建機市場を取り巻く環境

P5

II ■ 2020年3月期 通期計画

P10

III ■ 今後の戦略

P17



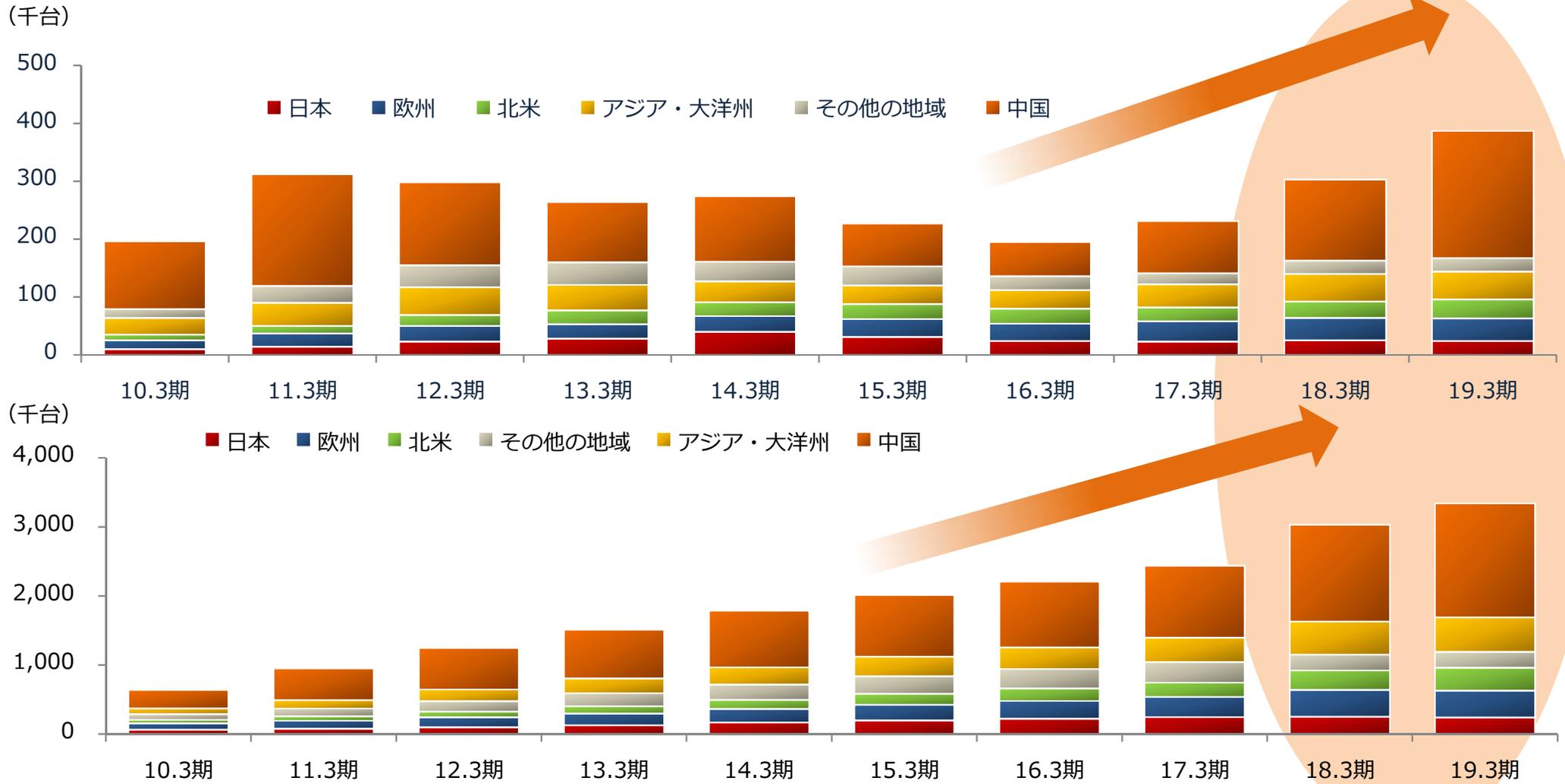
I 建機市場を取り巻く環境

【総括】

- 米中貿易摩擦の懸念があるものの、中国は公共投資を対策として実施。中国経済は全体的には堅調に推移
- 世界の建機市場の約5割を占める中国市場において、主要得意先日系メーカーはシェア縮小、新車生産計画を下方修正、補給品在庫持ち高調整を実施

	過去	現状	今後の見通し
中国	不動産投資鈍化により 大幅な減産	旺盛な需要が継続	インフラ整備（2.15兆元）の投資拡大 排ガス規制契機に新規顧客獲得を目指す
東南 アジア	鉱山機械投資が低迷するも、 インフラ投資は堅調	インドネシアを中心に 需要は全体で増加	一部地域で若干の需要減少を見込む
北米	インフラ投資により 需要回復	エネルギー開発・インフラ投資中心に 需要は前年比増加	需要は堅調に推移すると見込む
日本	堅調な国内インフラ投資により 需要増加	設備投資・公共投資持ち直し 需要は前年並み	需要は前年比並みと見込む
欧州	軟調に推移	EU離脱問題先行き不透明も 需要は堅調に推移	需要は堅調に推移すると見込む

中国市場は、依然として拡大が見込まれる



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

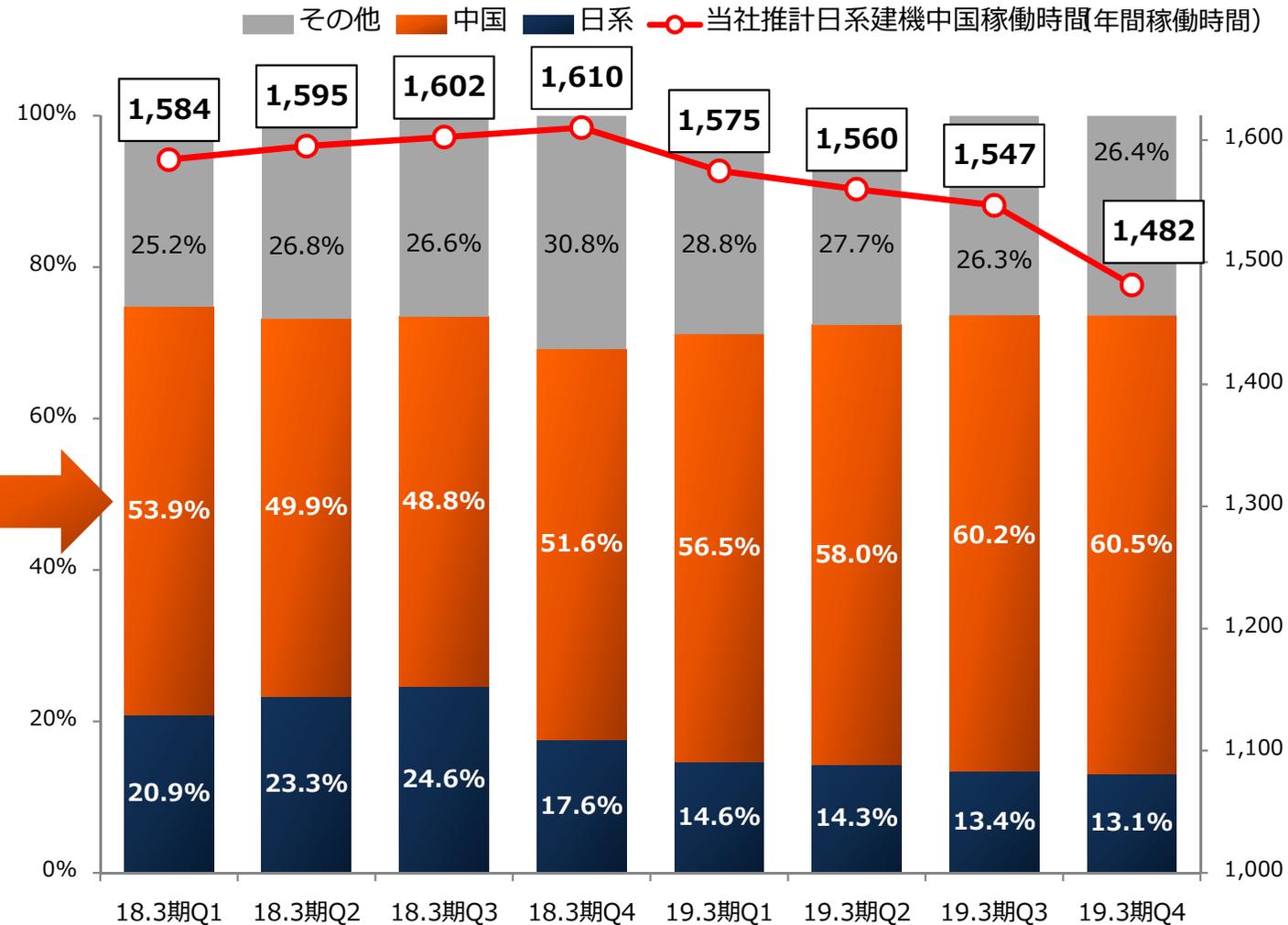
日系メーカーのシェアが下がり、中国ローカルメーカーのシェアがUP

中国市場 販売シェア推移

中国建機市場における、 主要建機メーカーシェア

中国ローカルメーカー

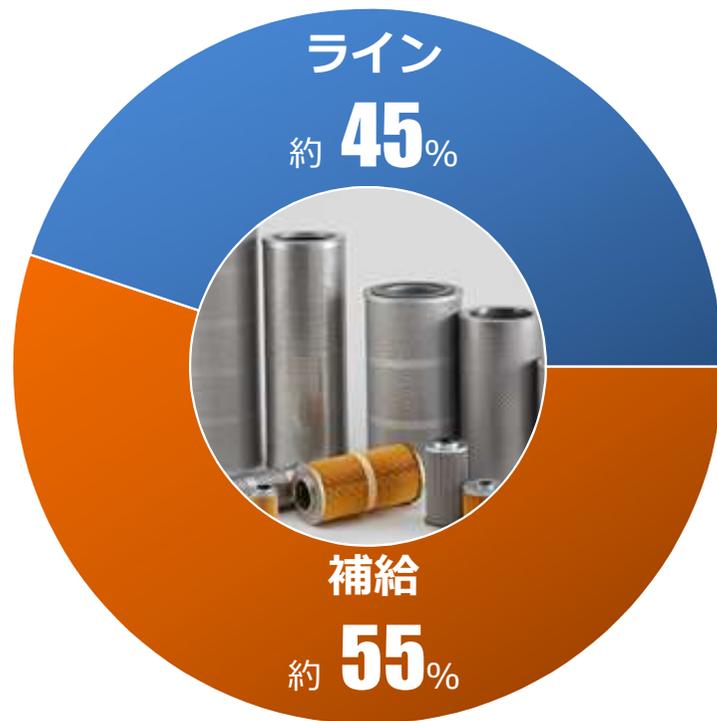
- A社
- B社
- C社
- D社
- E社
- F社
- G社
- H社
- その他



補給はストックモデル

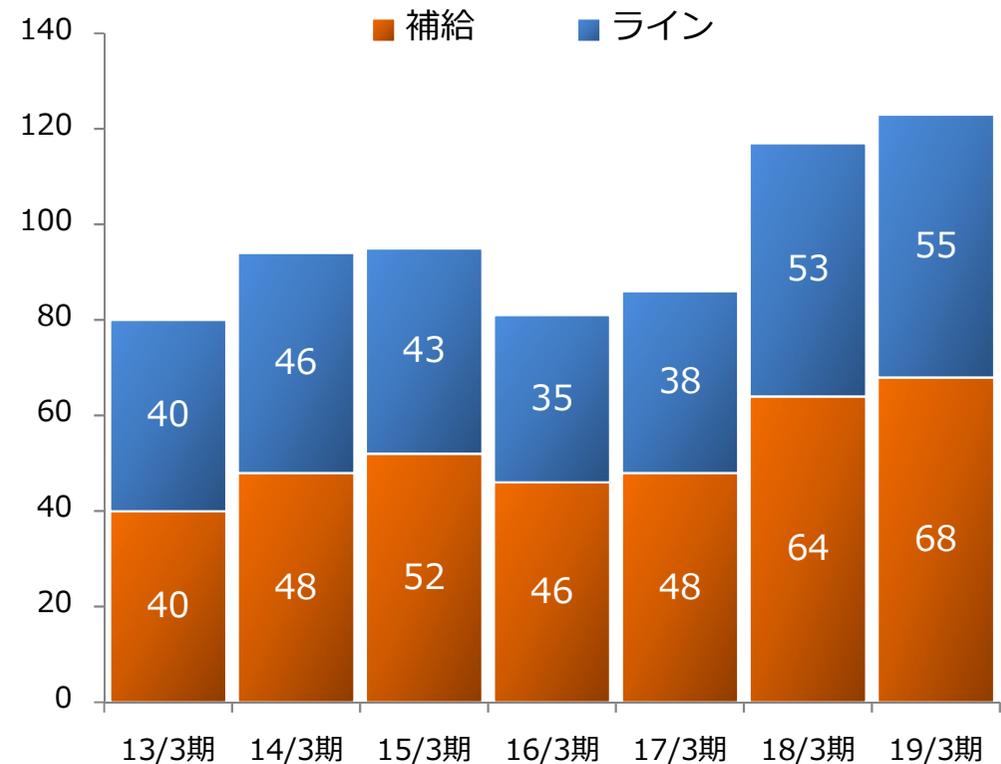
建機の稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

19.3期 建機用フィルタ 売上構成



補給・ラインの売上高推移

(単位：億円)





II 2020年3月期 通期計画

管理部門にとどまらず、現場にまで
企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY'Sとは (ROIC - WACC)

Maximizing
Added
Value of
Yamashin Filter
Spread

投下資本の利潤最大化を目指し、
各責任部署が (KPI) を設定し
業務に取り組む (KSF) ための
最重要指標 (KGI)

MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える

各指標に対して、担当部署を
割り振り、各KPIを設定して
目標達成に向けた業務運営を
全社にて行う

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (KSF)	責任部署	経営方針	19.3期部門目標 (action plan)	
※KPI算定の前提 Prv : 2018年3月期 年間実績値 Cur : 2019年3月期 年間実績値 MAVY's Prv: 4.1% Cur: 0.0% ROIC Prv: 7.0% Cur: 7.8% WACC Prv: 2.9% Cur: 7.8% ROE Prv: 10.6% Cur: 8.1% ※Prv : 7.6% ROA Prv: 8.1% Cur: 6.8% ※Prv : 6.2%	売上高営業利益率 Prv: 14.5% Cur: 14.2%	売上高伸長率 Prv: 31.6% Cur: 4.9% 新製品開発 純正率向上	営業・開発	事業ポートフォリオ拡大 既存事業の深耕	・新ろ材フィルタ販売 ・セミナー活動実施によるシェアアップ ・新規市場の開拓	
	売上総利益率 Prv: 46.1% Cur: 46.9%	売上原価率 Prv: 53.9% Cur: 53.1% 購買力強化 歩留り改善	生産・購買	収益性の改善	・PAC18、サプライヤ再編 ・SAP導入、原価低減	
	販管費率 Prv: 31.6% Cur: 32.7%	減価償却費率 Prv: 2.3% Cur: 2.8% 投資計画	経営企画 財務経理	事業ポートフォリオ拡大	・中期経営企画の策定 ・投資回収効果	
		研究開発費率 Prv: 1.9% Cur: 2.2% テーマの絞り込み 優先順位	開発	事業ポートフォリオ拡大	・新素材の開発 ・IoTの取り組み ・その他技術開発	
		人件費率 Prv: 12.8% Cur: 13.5% 最適な人員構成	人事・総務	人事制度・システムの 確立	・タレントマネジメント 制度策定・運用	
	投下資本回転率 Prv: 0.8 Cur: 0.8	売上債権回転率 Prv: 4.5 Cur: 4.2 債権管理	営業 財務経理	ガバナンス強化	・債権ポジション管理	
		運転資本回転率 Prv: 4.1 Cur: 3.5	棚卸資産回転率 Prv: 8.1 Cur: 6.6 適正在庫の設定	生産 営業	ガバナンス強化	・ワーキングキャピタル のモニタリング ・適正在庫水準の管理
		仕入債務回転率 Prv: 5.4 Cur: 5.2 債務管理	購買 生産	ガバナンス強化	・ワーキングキャピタル の改善	
	固定資産回転率 Prv: 3.7 Cur: 3.0	有形固定資産回転率 Prv: 9.0 Cur: 5.3 設備計画 (R&D・生産)	経営企画 総務・生産・開発	事業ポートフォリオ拡大	・投資回収効果最適化	
		無形固定資産回転率 Prv: 37.3 Cur: 36.4 投資計画	経営企画 財務経理	事業ポートフォリオ拡大	・投資回収効果最適化 ・SAP活用	

※18年3月期期首に増資した場合の想定値

- 世界経済の不安定要因を背景に需要を慎重に判断し、減収減益を見込む
- 全社プロジェクト「PAC19」により、原価削減に継続して取り組む

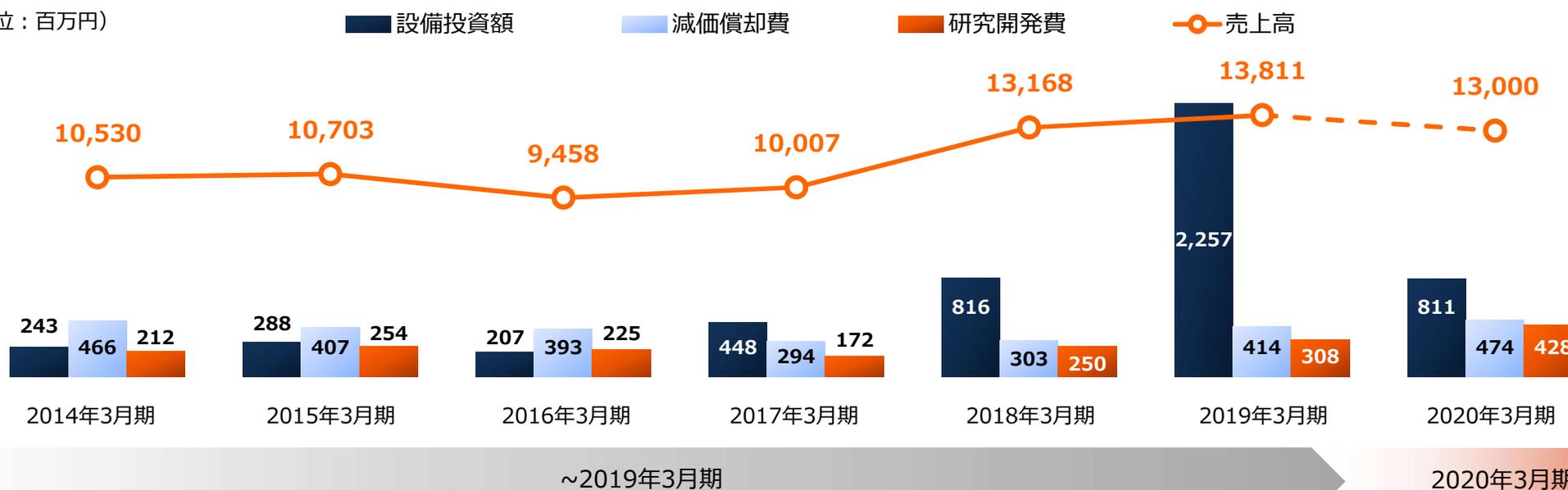
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し	19年3月期実績 対 20年3月期見通し
	金額	金額	金額	金額
(単位：百万円)				
売上高	13,168	13,811	13,000	△811
売上総利益	6,074	6,479	6,300	△179
売上総利益率	46.1%	46.9%	48.5%	1.6Pt
販売管理費	4,163	4,515	4,650	134
販管比率	31.6%	32.7%	35.8%	3.1Pt
営業利益	1,910	1,963	1,650	△313
営業利益率	14.5%	14.2%	12.7%	△1.5Pt
経常利益	1,824	1,915	1,600	△315
経常利益率	13.9%	13.9%	12.3%	△1.6Pt
当期純利益	1,249	1,413	1,100	△313
純利益率	9.5%	10.2%	8.5%	△1.7Pt
為替レート AR USD	110.9	110.9	108.0	△2.9
EUR	129.7	128.4	130.0	1.6

	2019年3月期 実績		2020年3月期 見通し		19年3月期実績 対 20年3月期見通し	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
建機用フィルタ	12,353	89.4%	11,543	88.8%	△809	△6.6%
ライン品	5,535	40.1%	5,062	38.9%	△473	△8.6%
補給品	6,817	49.3%	6,481	49.9%	△335	△4.9%
産業用フィルタ	548	4.0%	572	4.4%	24	4.4%
プロセス用フィルタ	909	6.6%	883	6.8%	△25	△2.8%
売上高合計	13,811	100.0%	13,000	100.0%	△811	△5.9%

(単位：百万円)	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	見通し
売上高	10,530	10,703	9,458	10,007	13,168	13,811	13,000
設備投資額	243	288	207	448	816	2,257	811
構成比%)	2.3%	2.7%	2.2%	4.5%	6.2%	16.3%	6.2%
減価償却費	466	407	393	294	303	414	474
構成比%)	4.4%	3.8%	4.2%	2.9%	2.3%	3.0%	3.6%
研究開発費	212	254	225	172	250	308	428
構成比%)	2.0%	2.4%	2.4%	1.7%	1.9%	2.2%	3.3%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移

(単位：百万円)



中間配当2.5円、期末配当3.5円の年間6.0円に増配

	17年3月期	18年3月期	19年3期	20年3月期 予想
1株当たり 配当金	2.4円※1	3.6円※1	6.0円	6.0円
DOE	2.3%	1.9%	2.4%	2.3%
総還元性向※2	25.6%	21.6%	31.9%	42.9%

注) 2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております

※1 2017年3月期、2018年3月期の配当額については、参考値として上記株式分割後の金額を記載しております

※2 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得 + 株主優待) ÷ 当期純利益

III 今後の戦略

建機市場は今後3~5年間は堅調推移 100億円の資金を元手に目標達成に向け積極的に挑戦

事業ポートフォリオの拡大

建機向け油圧フィルタに依存しない
次の成長の柱を育てていく

筋肉質な企業体質の構築

Multipleな生産体制構築
グローバル・サプライチェーン再構築

【3本の柱】

建機フィルタ ✕ プロセス・産業フィルタ ✕ 新素材の展開

PAC18によるコスト低減
R&D拠点向けの大型投資計画
主要マーケットでの生産拠点開設投資

研究開発センターの新設

30億円

新素材の量産と
既存製品の生産性向上

30億円

M&Aを含む資本/業務提携

40億円

● 「新素材×エアレーション対策システム×IoT」で付加価値を向上、
マーケットシェアアップを狙う



建機用フィルタ

2019年1月より新素材を使ったフィルタの量産供給を開始



ハイブリッドフィルタ

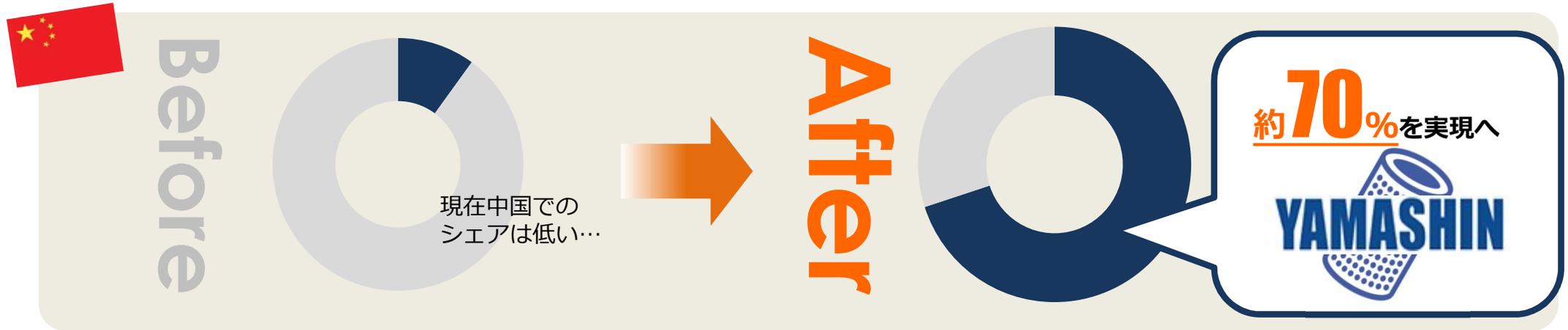
ガラス繊維×ナノファイバー

従来のものより、フィルタのライフが3倍になり、交換回数が減る結果、廃棄物を削減。建機寿命延長を実現

**環境への負荷の
軽減に寄与**

各建機メーカーモデルチェンジ時の採用に向け、提案中





**ディーゼルエンジン
排出ガス規制
「Tier4」**

- 2020年12月1日
規制開始
- 各社新型モデルを
早急に開発対応中

 **IoT、エアレーション
対策システム**

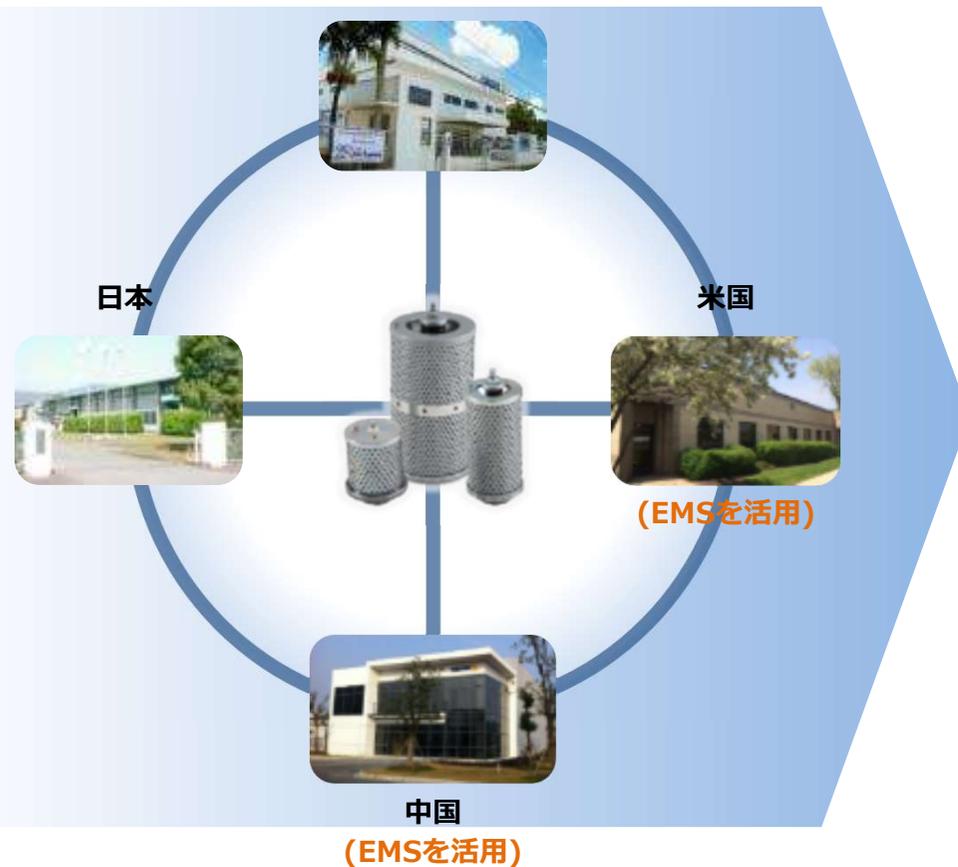
これまでのコスト重視から品質重視へ
高品質の製品を中国マーケットにも投入

**モデルチェンジのタイミングを逃さず、
中国ローカルでもトップシェア獲得へ**

- 生産拠点の見直し・再編により、Multiple な生産体制の構築を実施
- 購買力を強化し、グローバル・サプライチェーンの再構築を実施

Multiple ソーシング

フィリピン



目的・GOAL



- R&D一貫体制の確立を実現するための研究開発センターの新設（神奈川県横須賀市）
- 実機試験場を整備し、顧客要求を迅速に反映

既存拠点を包括する
新たな開発拠点
(2021年竣工予定)



横浜開発センター



佐賀事業所



横須賀メディアラボ



新設費用
30億円



建機油圧フィルタ



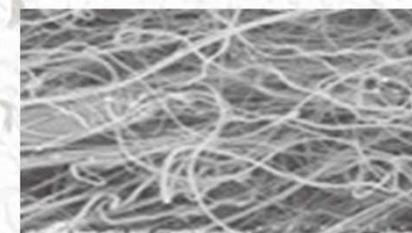
既存
分野



産業/プロセスフィルタ



新たな
分野



ナノファイバー

ナノフィルタ

繊維径のコントロールにより、 高品質なフィルタの量産化が実現可能となる

① 大手A社様



【素材特性】

- ・革新的なアパレル素材
- ・極薄特性、超保温性能、高調湿機能

【現状】

- ・量産供給の開始
- ・各アパレルメーカーへの供給体制の構築

② 大手B社様



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・仕様値達成に向けサンプル作製中
- ・製品化へ向けた試作品の性能アップ
- ・安定生産に向けた設備の改善
- ・来期量産化に向けた準備

その他

繊維径のコントロールにより、 高品質なフィルタの量産化が実現可能となる

① 家電用途



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・更なるファイバー間の緻密さ・極細化必要
- ・線維化時の雰囲気温度の高温化が必要
- ・別途、ロングライフ化エアフィルタとしてエレクトレット加工した素材を評価予定

② 自動車内装用途



【要望】

- ・現行品の性能(吸音・防音性能)以上の素材開発

【現状】

- ・コスト競争力強化
- ・量産供給体制の整備
- ・製品化の具体的な加工、管理方法の検討

③ 生活用品用途



【要望】

- ・現行品よりも高い保温性・保冷性

【現状】

- ・ナノファイバーの断熱効果データ取得
- ・試作品の作製と実験データ取得

世界トップシェアを誇る建機用フィルタ事業

建機用フィルタ事業は、インフラ整備の投資拡大及びアフターマーケットの強さを背景に持続的な成長が見込まれる

売上及び利益面で大きな貢献が予想される新規事業

多様な用途への活用が期待されるYAMASHIN Nano Filterが成長ドライバー

参考資料

セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「**ライン品**」と「**補給品**」にわかれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ。重要指標は「**新車需要台数**」
- 補給品は交換部品用のフィルタ。重要指標は「**稼働台数**」×「**稼働時間**」

販売形態 地域別動向 コスト削減

- **販売形態**
建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売。エンドユーザへの直販は基本的に行っていない
- **地域別動向**
地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる
- **PAC19 (Promptly Activated Cost reduction 2019)**
全社的なコスト削減プロジェクト

用語	計算式
MAVY's	ROIC - WACC
ROIC	NOPAT ÷ 投下資本
投下資本利益率	(経常利益+支払利息) ÷ 投下資本
運転資本回転率	売上高 ÷ (売上債権+棚卸資産-仕入債務)
固定資産回転率	売上高 ÷ 固定資産
売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権
棚卸資産回転率	売上高 ÷ 棚卸資産
仕入債務回転率	売上原価 ÷ 仕入債務
有形固定資産回転率	売上高 ÷ 有形固定資産
無形固定資産回転率	売上高 ÷ 無形固定資産

※貸借対照表項目について期首期末平均で計算しております。

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

WEAKNESS (弱み)

- 展開事業領域が限定されている
- 売上高の9割が建機用フィルタに依存
- 生産拠点の一極集中

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 建設機械市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達

育成事業



基盤事業 (成長)



構造改革事業

基盤事業 (安定)

新素材開発後

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- **新素材導入による更なるシェア拡大**
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大
- **「総合フィルタメカ」への飛躍によるビジネス領域の拡大**

WEAKNESS (弱み)

- 売上高の9割が建機用フィルタに依存

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 中国市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達
- **新素材商品展開の遅れ**

総合フィルタメカを実現し脱却予定

新素材による模倣品排除

育成事業

プロセス/産業
フィルタ

基盤事業 (成長)

建機用
フィルタ

STRATEGY
MATRIX

新素材事業

構造改革事業

基盤事業 (安定)

ご清聴ありがとうございました



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL 045-680-1680

E-mail ir@yamashin-filter.co.jp